
保健集録

第70集

2021年(令和3年)3月

横浜市養護教諭研究会

横浜市小学校教育研究会養護研究会

横浜市立中学校教育研究会養護教諭部会

横浜市高等学校教育研究会養護教諭研究会

横浜市特別支援学校教育研究会養護教諭専門部会

第70集 保健集録

1 あいさつ

- ・ 横浜市養護教諭研究会会長

岩瀬 美由紀 1

2 横浜市小学校教育研究会養護研究会

- ・ 養護教諭の発信力の向上を目指して

～「わくわく」や「なるほど」を効果的に引き出すために～

港北区 2

- ・ 「だ・い・す・き 保健室」

～保健センターとしての機能の充実をめざして～

磯子区 8

3 横浜市立中学校教育研究会養護教諭部会 教育課程委員会

- ・ 新型コロナウイルス感染症 保健教育実践集

. 15

4 横浜市高等学校教育研究会養護教諭研究会

- ・ 健康診断データ管理システムを通してのスキルアップ

. 19

5 横浜市特別支援学校教育研究会養護教諭専門部会

- ・ 特別な支援を必要とする子どもたちの歯・口の健康づくり

～歯科保健教育のスキルアップを目指して～

. 23

養護教諭の発信力の向上を目指して

～「わくわく」や「なるほど」を効果的に引き出すために～

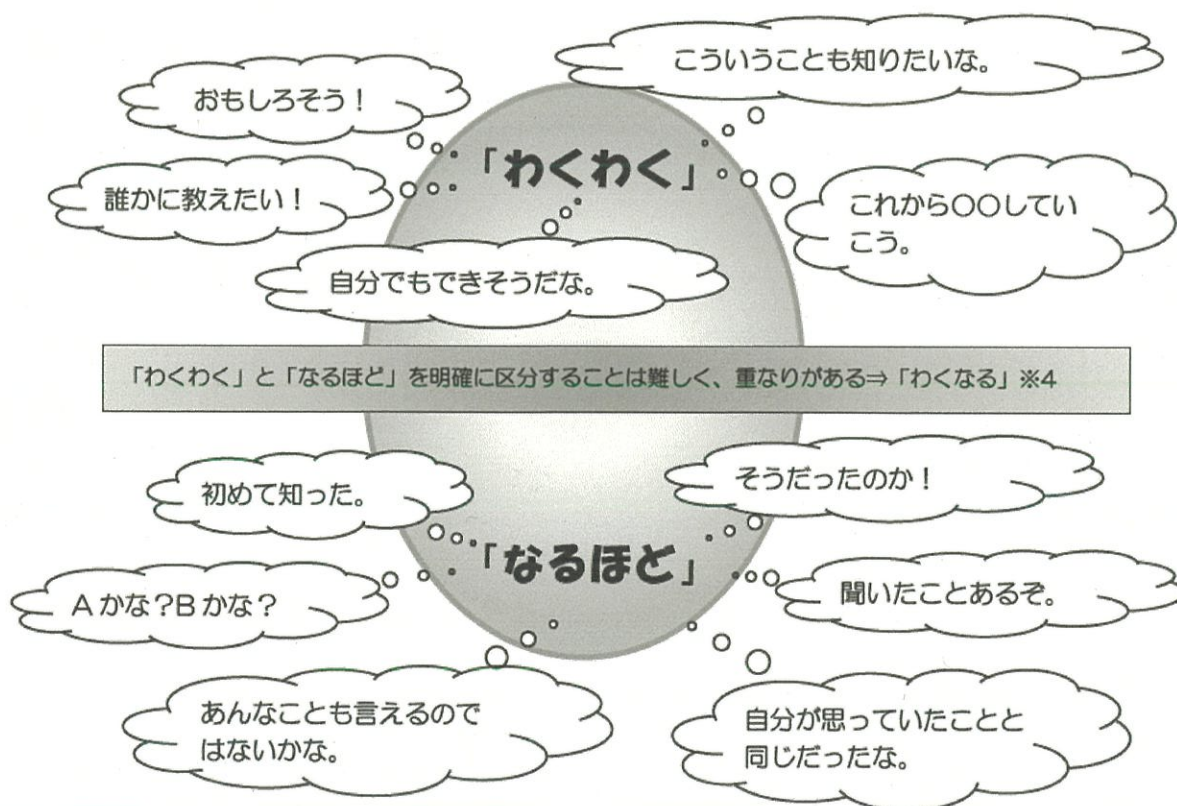
港北区小学校養護研究会

1 主題設定の理由

「来週の朝、〇〇について、養護教諭の立場から、5分くらいで話をしてもらえませんか？」

養護教諭は、持っている情報や知識をもとに「専門的な立場からの話」をする機会が多々ある。養護教諭の職務の中で、人に“伝える”場面は意外と多く、限られた時間の中で伝えたい内容を整理し、相手にわかりやすく伝える発信力が求められる。しかし、担任とは異なり、普段授業を行うことも少ないため、“伝える”ということに難しさを感じている養護教諭は多い。養護教諭は、その時々あらゆる健康課題に対して、聞き手に「わくわく」「なるほど」※1と感じさせる教材がないか、常にアンテナを高くし、知識・情報を収集している。しかし、多様な職務をこなす中で、つい効率性を求めてしまい、「例年通り」「一方的な確認」になりがちで、満足感の得られる発信に至らないことが多い。そこで、養護教諭と聞き手の両者が「わくわく」し「なるほど」と感じる内容に出会えた時、その満足度が、発展的な学習の広がりや行動変容に繋がっていくものと考え、養護教諭の効果的な発信について実践検証することにした。

※1 「わくわく」や「なるほど」の捉え



あ い さ つ

横浜市養護教諭研究会 会長 岩瀬 美由紀

令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染拡大により忘れられない年になりました。一年前、このような世の中になるとだれが想像していたでしょう。2月末に突然臨時休校が告げられ卒業式、修了式、入学式は何とか行ったものの、5月末まで続きました。学校再開後は感染対策として、マスク・手洗い・手指消毒・毎日の検温・換気・三密回避・消毒作業などを行い、手探りではありましたが、だれもが安心安全な学校づくりをめざしました。そして、未だ終息の見通しのつかない中、多くの養護教諭が自分に何ができるかを日々考えていることと思います。

横浜市養護教諭研究会は、昭和57年（1982年）に発足し、今年で39年目になりました。横浜市内学校に勤務するすべての養護教諭と養護教諭であった管理職のみなさまをもって組織された研究会です。この会の目的は、子どもたちの心身の健康を守り、養護教諭の役割や職務の向上をめざすことにあります。そのために、各種研究会、学校保健会、組合というそれぞれの組織が行っている活動を情報共有し、課題や進むべき方向性を確認し、連携を深めています。

この保健集録には、例年、小学校と中学校については各研究発表大会の発表内容を寄稿していただいています。令和2年度（2020年度）は研究発表大会が行われませんでしたので、今回は小学校については今年度発表予定だったもの（令和3年度の二次大会で発表予定）を、中学校については中学校の教育課程委員会で研究したものを寄稿していただきました。高等学校と特別支援学校については例年同様、一年間研究されたものを寄稿していただきました。様々な制約のある中ですが、各研究会ともに工夫しながら充実した研究活動が行われてきました。研究を行い、それを記録に残していく作業には大変なご苦労があったことと思います。そして、その研究のまとめとして、みなさまのご協力のもと、「保健集録70集」が完成し、お届けすることができることを嬉しく思います。この保健集録は、次世代の養護教諭への貴重なバトンになることと思います。また、今年度は多くの研修会や研究会が中止やデータでのやりとりとなりましたので、この保健集録が、児童生徒の健康や養護教諭の職務について考える一つの手立てになれば幸いです。このような時だからこそ、思いを共有し、横浜市の養護教諭として同じ歩調で同じ方向に歩んでいきましょう。

最後になりましたが、「保健集録70集」作成にあたり、ご尽力いただいた編集委員の皆様、執筆くださった方々、その他関係いただいた皆様にご協力をお願い申し上げます。

2 研究経過

《平成29年度》

授業研究・仕事の工夫の2つのグループに分かれて研究を進めた。仕事の工夫グループでは、現場での困り感に応じて、さらに4つのグループ(職員研修、掃除、保健集会、保健指導)に分かれて研究を進め資料を作成した。作成した資料の活用や発信の仕方について課題があがった。授業研では、健康教育課主任指導主事からご指導いただき、5年生特活「睡眠について」の授業を行った。

《平成30年度》

授業研究・保健指導・職員研修の3つのグループに分かれて研究を進めた。

保健指導・職員研修のグループでは、前年度に作成した資料や、今持っている資料をもとにどのように実践しているか、「プレゼンテーションシート※2」を使用して、自己評価を元に検証した。

授業研究のグループでは、元小学校校長からご指導いただき、保健「けがの防止」の1時間目を取り扱い、指導の中に児童の「わくわく」「なるほど」を引き出すための教師側の手立てを取り入れた。また、聞き手の「わくわく」「なるほど」が具体的にどのようなものか、捉えを明確にした。

夏季には、健康教育課主任指導主事を講師に招き、「養護教諭が行うプレゼンテーション」というテーマで、要点をまとめて話すことやユニバーサルデザイン等について研修を行った。研修の中で行った『1分間スピーチ』では、「自分が実践した保健指導や職員研修について1分以内にまとめてわかりやすく説明する」という課題に取り組んだ。実際にやってみると、1分は長くもありまた短くもあり、「何が言いたいか」という話の肝を明確化し、さらに精選することの難しさを実感した。また、自分の会話の癖も見つかる等、一人一人に様々な気づきがあった。「養護教諭の発信力・プレゼンテーション力」という本研究主題に行きつくきっかけとなった。

※2 プレゼンテーションシートとは

本研究では、プレゼンテーション(相手にわかりやすく伝え、受け入れてもらうための行動)の内容を確認するための「プレゼンテーション確認シート」と、プレゼンテーションの骨格となる「プレゼンテーションストーリーシート」の両方を合わせて「プレゼンテーションシート」と表現する。

《平成31年度(令和元年度)》

前年度同様、授業研究・保健指導・職員研修の3つのグループに分かれて研究を進めた。

保健指導・職員研修のグループでは、それぞれのグループで共通の「プレゼンテーションシート」を作成し、それらをもとに各校で実践検証を行った。自己評価に加えて、実践後に聞き手となる他の教職員や児童からアンケートをとり、聞き手の「わくわく」「なるほど」が引き出せたかどうかを検討した。

授業研究のグループでは、昨年に引き続き、元小学校校長からご指導いただき、保健「病気の予防」の7時間目を取り扱った。養護教諭及び担任の発問の仕方或使用する資料等を中心に何度も試行錯誤を重ね、昨年度に引き続き児童の「わくわく」「なるほど」を引き出す指導の工夫を検討した。

夏には、小学校校長を招いて研修を行った。発信をする際には聞き手と良い関係を築く必要があるという観点から、学級づくり等の学級風土の理解を深めることや、相手に情報を発信する際に心がけること等、プレゼンテーションに関するたくさんのポイントを学ぶことができた。

《令和2年度》

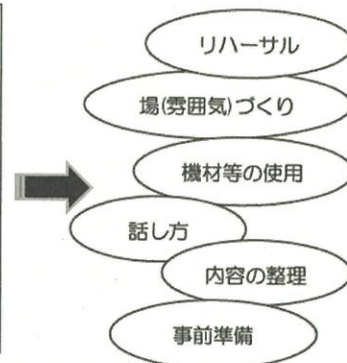
前年度のアンケート結果や自己評価を元に、「プレゼンテーションシート」を養護教諭の職務に合わせて「構成シート」として改良し、作成した。作成した「構成シート」を用いて、発信の実践に繋がった。授業における「わくわく」「なるほど」ポイントについては、主体的・対話的で深い学びの枠組みに合わせて整理をした。さらに、これまでの研究のまとめとして、成果や課題について研究協議した。

3 研究内容

(1) 発信の場における課題の共有と重要ポイントの明確化／プレゼンテーションシート（構成シート）の作成と実践

研究のはじめに、発信の場において困っていることや悩んでいることについて意見を出し合った。また、夏季研修の「1分間スピーチ」で実感した、話の肝を明確化し精選することの難しさ・自分の話し方の癖に気づきどうしたらうまく伝えられるかと感じたことをふまえ、「養護教諭の発信力・プレゼンテーション力」が重要であるという研究の方向性を決定した。

緊張してしまう。伝えることを忘れてしまう。
プレゼンテーションソフトの使い方がよく分からない。
使える技法をどこで使っているのか分からない。
説明で時間が超過する。しゃべり倒して一方的になってしまう。
他校の実践資料がうまく生かせない。
良い資料が見つからない。つい指示的になってしまう。
自分の話していることが伝わっているか自信がない。



これらの課題を、ビジネス書（実教出版(2016)『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016』）の内容に当てはめ、養護教諭の職務の特性と合わせて、発信の場における重要なポイントを明確にした。

これをふまえた発信を行うために、前出のビジネス書を参考に、各校個人で自由に発信の題材を決め、プレゼンテーションシートを作成した。また、実践について振り返り、プレゼンテーションの視点から、各自の実践に対する自己評価を行った。

自己評価から見てきた今後の主な課題は、事前準備の充実を図ることで、それが自信や発信力を高めることにつながり、発信の場を楽しむことができたという満足感につながると考えられる。プレゼンテーションシートを活用したことにより、「内容を整理することができ、発信の場に合わせたツールについて考えることができた」との声が多くあがり、プレゼンテーションシートの活用が有効なことがわかった。

《表1 発信における重要ポイントと分類》

①より良い人間関係を保ち、行動を促す	②構想からリハーサルまでしっかり考える	③ツールを使いこなす	④情報をまとめ、表現する	⑤わかりやすく話す
・児童理解 ・学級風土理解 ・日々の保健室経営 等	・他教科との関連 ・自分ごととする構想 ・保護者の声 ・種まき ・事前授業 ・導入の工夫 ・資料提示のタイミングや方法 ・ＴＴの順の打ち合わせ ・時期の設定 等	・資料に適したツール選び ・効果のあるツール選び ・情報機器の使い方 等	・役立つと思うデータや資料集め ・要か不要の取捨選択 ・対象やねらいに合わせて加工 等	・自分の持ち味を生かす ・発達段階への配慮 ・聞き手をひきつける工夫 ・表情 ・ユニバーサルデザインの視点 ・声の大きさ ・抑揚 等

(2) プレゼンテーションシートを活用して事前準備の充実を図る

事前準備を充実させた発信について検証するため、職員研修・保健教育のグループごとに、それぞれ

れの題材をもとに各校で実践を行った。発信における重要ポイントをふまえて教材を選定し、「プレゼンテーションシート」を活用して、聞き手に「わくわく」や「なるほど」と思わせるための指導の要点を整理した。各校で、その「プレゼンテーションシート」をもとに実践を行い、実施後は、聞き手である職員や児童より評価をもらい、自己評価と合わせて、指導を振り返ることとした。

①職員研修グループ

『職員嘔吐処理研修』を題材とし、「わくわく」「なるほど」を引き出して研修のマンネリ化を改善するため、新たな実技研修や資料を取り入れた1本のプレゼンテーションシートとパワーポイントを作成し、各校でアレンジしながら実践を試みた。また、その研修の中で肝となる、「わくわく」「なるほど」教材や伝え方をまとめ、ねらいやポイントごとに整理した。

嘔吐物にみたてた保冷材に蛍光剤を混ぜ、実際に吐いた時のように床に落とす実技演習では、ブラックライトを使用して、吐物の飛び散る範囲を視覚的に確認することができ、「こんなに飛び散っているの!」という「わくわく(驚き)」を引き出す効果的な演習となった。また、飛び散りの心配がある半径2m円に消毒のための新聞紙を広げる実技を行い、「こんなに新聞(消毒)が必要なのだ。」という「なるほど(納得・反省)」から、聞き手が消毒範囲の広さを実感できるようにした。

このような聞き手の従来の考えを揺さぶるような教材や手段から「わくわく」「なるほど」を引き出すことができ、研修後には、職員の意識の高まりや行動変容がみられ、効果的な発信となった。また、実施後に聞き手である職員に、「わくなるポイント」の発信の仕方について評価・アンケートをとることで、次の研修への発展に繋がった。



②保健教育グループ

『擦り傷の手当て』を題材とし、児童の「わくわく」を引き出すためには視覚的な教材が効果的であるとの観点から、写真を主の教材とした。また、保健室で児童に指導することを前提として、簡単な準備でさっと取り出せる紙ベースの教材とした。

児童の「なるほど」を引き出すためには、発達段階に応じて内容を変える必要があるという観点から、低学年と高学年で内容を少し変更した。なお、教材作成時には養護教諭ならではの視点として「カラーバリアフリー」について考えることの重要性もふまえ、教材の色の使い方について研修を受講し、理解を深めた。



実施後には実際に児童に行動変容がみられ、児童対象に行ったアンケートでも、意欲の高まりや新たな知識が身に着いたとわかり、効果的な発信を行うことができたと考えられる。

③プレゼンテーションシートを活用した発信の実践を通して

聞き手の「わくわく」「なるほど」を引き出すためには、ストーリーの構成を考える段階で発信者側が意図的に「わくなるポイント」を意識しておくことが重要であり、プレゼンテーションシートに従って、聞き手を揺さぶるポイント(きっかけ・軸や肝)を明確にし、ねらいを達成するためのスト

一リーを組み立てていくプロセスが大切だと感じた。また、発信で用いる資料や教材に関しては、聞き手の「わくわく」「なるほど」を引き出すという視点で、視覚的なものを多く取り入れること、情報量が増えすぎないこと、聞き手に新たな気づきを与えること等に留意した。

プレゼンテーションシートは、実際に構成していくと使いづらい点があった。またあくまでも発信内容を構成するためのツールであり、実際の発信時には指導案のようなストーリーシートをたてる必要性を感じた。これらのことをふまえて、あらゆる場面で誰でも簡単に活用できる様式に改良していく必要があると考えた。

(3) 構成シート・ストーリーシートへの改良

《図 2》『1. 構成シート/2. ストーリーシート』

実践を通して感じた前述での課題をもとに、構成段階で使用するプレゼンテーションシートをより使いやすいものにするため、名称を『1. 構成シート/2. ストーリーシート』《図 2》とし、作成手順や項目に修正を加えた。また、養護教育実習生にも構成シートを使ってもらい、「少しの説明で使い方がわかるか」

「考える過程で必要な重要ポイントを整理・精選するのに手軽に使えるか」という観点から検討し改良を行った。

The figure shows two versions of a composition sheet. The left version, '構成シート1', is a complex form with multiple sections for inputting details like 'テーマ・題材' (Theme/Topic), '構成' (Structure), and 'ポイント' (Points). The right version, '構成シート2【ストーリーシート】', is a simplified table with two main columns: '構成シート1' and 'ストーリーシート'. It includes a header for '1. ねらい (指導案シート1-番号)' and a table for '2. ストーリーシート' with rows for '構成シート1' and 'ストーリーシート'.

(4) 「わくわく」「なるほど」の視点を取り入れた授業実践

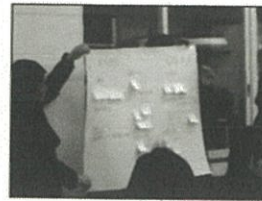
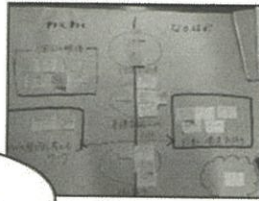
授業研グループでは、聞き手の「わくわく」「なるほど」を引き出すことができる場面を想定し、指導案に取り入れて作成した。視覚的な資料が「わくわく」や「なるほど」を引き出すと考え、けがの防止について考える動画を積極的に使用したり、薬物の模型を取り入れたりした。また、話し合い活動の中で意見を交換することや、実際に教員が薬物使用者にインタビューをした内容を取り入れることにより、深い学びへと繋げ、理解を深めていくことで「なるほど」につなげていくようにした。

授業研を通して、「なるほど」は新しい知識が増えたり、知識が深まったりする場面で見られ、「わくわく」は抽象的・感覚的なところがあって難しいが、もっと知りたいといった思いや、興味関心がうまれる場面で見られるのではないかといった意見があげられた。ただ、聞き手の「わくわく」「なるほど」については重なる部分があるため、2つをわけるのはではなく、「わくなるポイント」として、指導案に取り入れていくとよいのではないかと考えた。「わくわく」「なるほど」はセットになって初めて子どもに定着し、自分の生活に返ることで、授業の内容を自分事として考えることができるのではないかとと思われる。

また、授業に養護教諭が関わる場合、児童の価値づけが必要な場面等、効果的な場面を事前に検討して話すことで、聞き手である児童の「わくなる」を引き出すことができるということがわかった。また、知識としておさえたいところ、児童の思考にゆさぶりをかけるところで養護教諭が関わるようにすることで、養護教諭の発問が児童の理解を深め、実際に児童の「なるほど」を引き出すことができた。



どんな場面で
児童の「わくわく」や
「なるほど」が見られた
か？



4 成果と課題

本研究の中で私たちは、聞き手の思いや話し手の課題を整理するために『プレゼンテーションシート／構成シート』を用い、手順や項目に沿って「わくなるポイント」を軸としたストーリーを考えるという、事前準備の過程を丁寧に行って実践検証を行った。その結果、ねらいに沿って精選された指導内容、つまり「わくなるポイント」を意図的効果的に発信できた時には、聞き手と発信者の「わくなる」がその後の思考の流れをつくり、行動や意識を変える力になると実感できた。

また、他の発信者と共に発信する指導場面では、集団や個としての聞き手の実態や発達段階、関心などを把握する過程でこの『構成シート』が活用でき、役割を分けたり、内容を精選したりする際にも役立った。また、それぞれの発信の事後には「振り返り」が大切であり、その自己評価や他者評価が、更なる発信力の向上には不可欠であると感じた。

つまり、本研究の『構成シート』は、PDCAサイクルの中で活かされるものとなり、それによって「マンネリ」「単発」「一方的」な内容も、振り返りを経て、状況に応じてアレンジを加えることができ、新鮮なより良い発信に発展していくと考えられる。

授業研究においては、集団や個としての実態や発達段階、関心やねらいをふまえて指導内容の取捨選択や組み立てをしていくことが大切だとわかった。どんなすばらしい「わくなるポイント」を用意していても、あれもこれも伝えたいとポイントが多くなると、ねらいや軸がぶれてしまう。また、授業においては、教師の発問や児童の話し合い活動の中からも、児童の「わくなる」がうまれる場面が多く見られた。TTでの養護教諭は、児童の価値づけが必要な場面において、子どもの思考を揺さぶるために「わくなるポイント」を投げかけるという役割を担っている。そのため、あらかじめ、「児童にどんな力をつけてほしいか」「気づかせたいこと」といったねらいや、養護教諭の立ち位置を意識しておくことが大切で、その準備のおかげで、発信の仕方やタイミングを調整したり、児童の発言に柔軟に対応したりすることができ、児童の「わくなる」を広げることに繋がる。児童の「わくなる」は、授業における『主体的・対話的で深い学び』において思考の流れをスムーズにさせ、考えさせる過程を作り、それが深い学びへつながっていくものだと感じた。また、同じ発信者である担任と共に授業を組み立てたり、児童の学びの一連のプロセスに関わったりすることができ、発信における重要ポイントについて多くの学びがあった。

あらゆる発信の場面において、十分な準備、検討の時間が取れるわけではないが、1本のプロセスは、次の発信に活かされるものとなる。『構成シート』が、研究だけのものにならないよう、今後のあらゆる発信場面において、はじめての養護教諭でも、気軽に活用できる形式になるよう改良していく必要がある。事後の「自己評価・他者評価シート」については更なる検討課題であり、さらに「ツールの活用」や「話し方のスキル」等の発信力については、実践を重ねる中で客観的な評価をもとに向上していけるものと思われる。

今後も「わくなるポイント」や「構成シート」といった《発信の重要ポイント》を意識し、養護教諭の私たちが、聞き手と共に「わくなる」を感じられる実践を目指していきたい。両者の「わくなる」は、意欲の高まりや行動変容を促すなど互いの深い学びへと広がり、養護教諭の専門性や発信力のさらなる向上につながっていくものと考えられる。

「だ・い・す・き 保健室」

～保健センターとしての機能の充実をめざして～

磯子区小学校養護研究会

1 テーマ設定の理由

磯子区養護研究会では、平成 27 年度から保健室経営の充実を目指し、養護教諭が担う保健センターとしての役割を考え、各学校の工夫を共有し保健室経営に生かせるよう取り組んできた。

その中で、**だ**れでも、**い**つでも、**す**ぐに、**き**ちんとできる資料が一つにまとまっているアイデア集を作成し、職員研修と保健指導を繋げることができればより効果的な指導ができ、子どもたちも職員も安心・安全な生活が守られるのではないかと考え、このテーマを設定し研究を深めていくこととした。

2 研究経過

平成 27 年度から、3 年間**執務について考える～保健室経営の充実を基盤として～**をテーマに、保健室経営について各校の様子を話し合ったり経験の浅い先生や臨任の先生たちの困り感などについて情報交換したり、実際に区研で会場校になった学校の保健室見学をしたりするなどして研究を積み重ねてきた。

平成 29 年度からは、各学校の保健室経営で学んだことをもとに、①学校保健委員会②職員研修③保健指導、掲示資料の 3 つのグループに分かれて内容や提案方法、外部連絡等々アンケートを実施したり実践例の持ち寄りをしたりして、研究をすすめてきた。

さらに平成 30 年度から 2 年間は、テーマをより具体的なものにするため

保健センターとしての役割を考える～子どもたちが安心・安全な生活を送るためのアイデア集～

としてグループを①職員研修②保健指導/掲示資料に絞り、実践例を持ち寄り、より実践的な研究を深めてきた。研究を進める中で、職員研修の内容と保健指導をリンクさせたらより効果的になるのではと考え、実践をしながら検証した。また、各校の実践を集め、誰でも、すぐに使える資料を「アイデア集」として作成し、月ごとにテーマを決め、具体的にすぐ使える資料となるよう工夫した。

令和 2 年度からは、「学校規模や職員の経験年数等に関わらず、必要な指導や対応ができるための資料を作成し、広めること」が研究目的であることを確認し「だれでも・いつでも・すぐに・きちんと」の頭文字をとり**だ・い・す・き 保健室 ～保健センターとしての機能の充実をめざして～**と研究テーマを設定した。前年度までに資料作成・実践したものの中から、どの学校でも課題となり得る「食物アレルギー・熱中症・注意が必要な虫」の 3 つについて、職員研修と児童への指導がリンクし、どの学校でも使いやすいように資料を整えた。

リンク

「緊急です」のキーワード（指導・掲示・職員研修）

症状の内容、予防、対処など、それぞれがリンクしている。（指導・掲示）

だいすき

パワーポイントのデータになっている、紙芝居形式である、学校の共有サーバーを利用すると、

だれでも**い**つでもどこでも**す**ぐに**き**ちんと**だ**れでも同じレベルで**き**ちんと指導できる。

掲示のパーツを再利用することで、時短で**す**ぐに**だ**れでも**き**ちんと掲示物ができる。

3 研究内容

食物アレルギー編

①保健指導/掲示資料

作成の前に

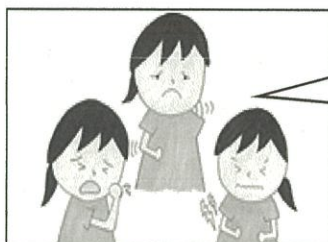


- ・いつでも、どんな場所でも指導できるように、パワーポイントに絵を貼っておき、パワーポイントを使っただけの指導も、印刷して紙芝居での指導もできるようにする。
- ・エビペンを使っている子がいるときに使える内容も入れておく。

できた教材

紙芝居を作成し、スキャンで読み取ったものをパワーポイントに貼り付けた。

掲示グループの「めんえきくん」が分かりやすいので、パワーポイントの中にも取り入れた。



職員研修の中でも、発症時の具体的な場面を設定し（咳込む）研修しているので、子どもたちにも具体的な症状（かゆみ、咳、腹痛など）を伝える場面を入れた。

職員研修グループ・掲示グループでもあるように子どもたちに「緊急です」の合言葉を知らせてもらうためのスライドを入れた。



実際の指導

A 小学校

学年：第1学年 場所：ホール 指導者：養護教諭、栄養教諭、担任

- ・事前に担任が子どもたちにどんな内容の話を書くかアナウンスしていたので、意欲的に話を聞くことができた。
- ・映像が大画面に映されたので、子どもたちは集中して見ることができた。
- ・食育部の主任が、ミライムで全教職員に発信し、各クラスで担任が指導できるよう準備をしてくれた。CD-Rにも入れて、クラスのPCにつなぐとすぐに指導できるよう準備をしてくれた。

B 小学校

学年：第3学年 場所：教室 指導者：担任

- ・紙芝居だったので、子どもたちが興味をもって真剣に聞いてくれた。
- ・絵が可愛く、イラストがあることで分かりやすかったと思う。
- ・このような教材があることで、担任として指導がしやすかった。

指導後の振り返り



○成果（よかった点） ▲（課題・改善点）

- パワーポイントでも紙芝居でも指導できるのは、さまざまな場面で活用できてよい。
- パワーポイントのノート部分にセリフもあったので、大切な内容を言い忘れることなく指導できる。
- 紙芝居終了後に、栄養教諭がめんえきくんを取り上げ「めんえきくんが勘違いして攻撃しているだけで、好き嫌いじゃないんだよ」と話してくれて更に理解が深まった。

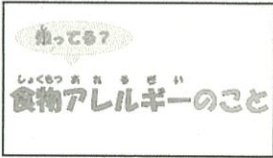
▲食物アレルギーがなぜ起こるか説明する「めんえきくん」の箇所の言葉が分かりづらかったようなので、低学年の子どもでもわかりやすいように文言を変更する。

▲ただ読むだけでなく、子どもたちに問いかけながら行くと、理解が深まる。

（例）食べ物のイラストが出てくるところで、「これは何の食べ物かな？」と参加型にする。

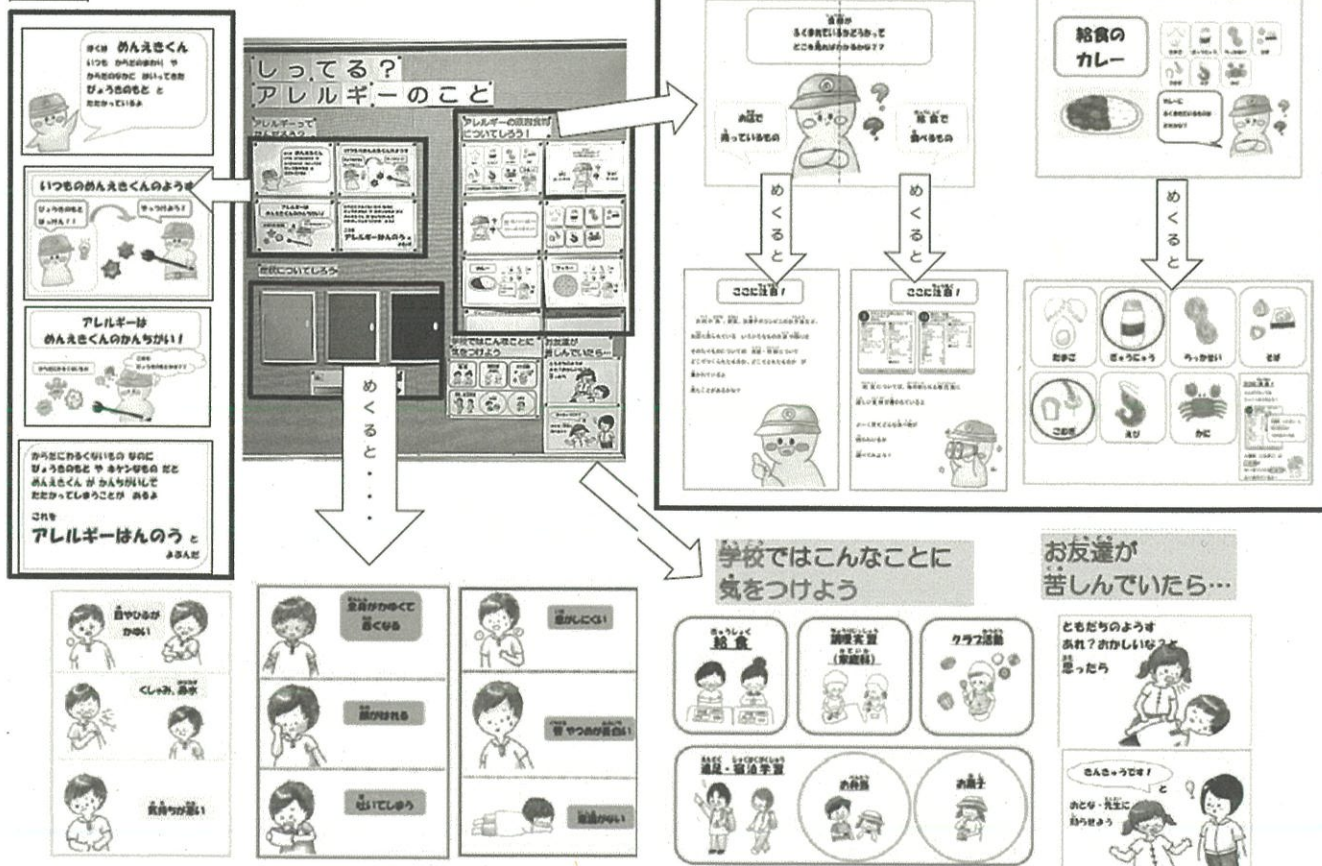
指導資料

「知ってる？食物アレルギーのこと」

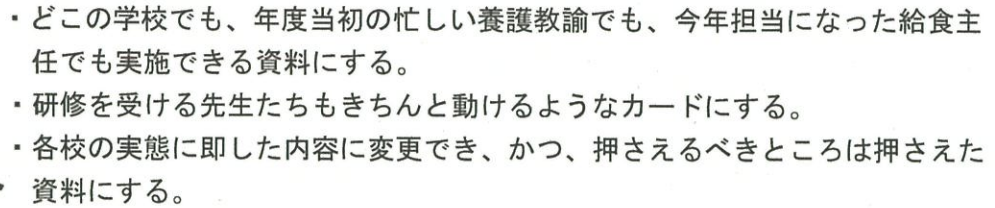
1 	これからみなさんに「食物アレルギー」の紙芝居を読みます。
2 	〇〇さんと■■さんは、小学☆年生。2人とも、学校が大好きです。 そんな2人が一番好きなのは、給食の時間です。 ここで2人の給食のときの様子をのぞいてみましょう。 （※〇〇・■■・☆は学校の実態等でご自由に入れてください。）
3 	おいしそうに給食を食べている〇〇さんと■■さん。 あれれ、でも食べているものが違います。 実は■■さんは、「食物アレルギー」があるので、お弁当を持ってきています。
4 	食べ物の中には、アレルギーのもとになるものがあります。 その食べ物を食べたり触ったりすると、からだがかゆくなったり、せきがでたり、おなかが痛くなったりしてしまいます。
5 	どうして食物アレルギーが起こるかという、私たちのからだにはばいきんやウイルスなどの悪者が入ってきたときに、からだを守る「免疫」という仕組みがあります。 いつもはばいきんやウイルスがからだに入ってきたときにやっつけてくれます。 「びょうきのもとはっけん！」「やっつけよう」と、免疫くんは大活躍してくれます。

6	でも、食物アレルギーの子のからだに住んでいる免疫くんは、からだに悪くない食べ物を、「これも病気のもとかな？」と勘違いして、たたかってしまうときがあります。
7	食物アレルギーのもとになる食べ物には、いろいろな食べ物があります。食物アレルギーの子の一人ひとり、食物アレルギーのもとになる食べ物は違います。
8	アレルギーの食べ物を食べてしまって具合が悪くなってしまったときに使う、「エピペン」というお薬を持っている人もいます。
9	みなさんにできることは、もし、具合が悪い子がいたときには、まわりの大人を呼んでくることです。 まわりの大人に「緊急です」と伝え、助けをよんでください。

提示資料



作成の前に



●『小学校 食物アレルギー研修』資料 実際に動いてみる対応訓練型の研修に！

●『緊急時対応カード』研修時も実際の時も落ち着いて行動できるように作成した。

1 2

研修の様子

A 小学校

全職員

場所：体育館を職員室・校庭に見立てて実施
実施時間：1時間（すべての役割を同時進行）
シナリオ・役割カード使用

B 小学校

全職員

場所：体育館・教室・廊下
実施時間：1時間半（場面場面で区切る）
動画に撮り、最後に全員で見ながら振り返る。
シナリオ・役割カード使用

研修後の振り返り

○成果（よかった点） ▲（課題・改善点）

配役をしてみて感じた点

- その場でどんどん記録していく大切さが分かった。
 - リーダーとして動く場合も想定されるので、落ち着いて素早く行動できるようにしたい。
- 体験することで、疑問が出せるのがよかった。
- 「緊急です」という言葉は日頃あまり使わないが、意識して使えた。
- 電話のかけ方や対応のマニュアルがあって、スムーズに動けた。実際に想定した研修は、有意義だった。
- ▲リーダーが情報収集、判断、指示、確認を行うので、カードを渡すことが難しい。記録も独立であった方がよい。
- ▲カードの数が多くて、渡すときに迷った。厳選してもよいと思う。（⇒救急車要請、保護者連絡、エビペン準備など、特に緊急性の高いものは台紙が赤のカードにしたり、大きさを変えたりして、特に先に渡すべきカードが明確になるとよいのではないか。
- ▲保護者に連絡がつかないときにどのようにしたらよいのか。
- ▲エビペンをどのような症状、どのタイミングで打つかの判断が難しい。
- ▲校内放送の内容（職員に対してどのような呼びかけをするのか、アレルギー症状を発症した児童がいることが他の児童に伝わらない方がよいのか。）
- ▲児童も動揺している中で、「緊急です」と言えるかが不安だった。

研修を立案・運営をした養護教諭の感想

- 実際に動いてみることで、自校で課題となる部分なども教職員全員で共有でき、有意義だった。
- ▲それぞれの危機意識も高まり、大変有意義な研修だったが、例えば、終わった後にビデオで確認したり、もしくはそれぞれの場面を止めて検証を行ったりするなどの工夫があると良かった。

*今回は書面の都合で食物アレルギーのみ掲載しました。「熱中症」「注意が必要な虫」については、第二次教育研究大会発表資料に掲載します。

4 研究成果と課題

（1）成果

磯子区では平成27年度から保健室の執務について研究を重ねてきた。それぞれの困り感（経験、校内事情など）から誰でもすぐにはできる資料の作成へとつながっていった。特に職員研修と保健指導・掲示物がリンクすることでより緊急時の児童・職員それぞれのすべきことが明確になり、例えば管理職や養護教諭が不在の場合でも、必ず早急にしなければならないことを忘れずに

進める手助けになるものと思われる。また、「緊急です」というキーワードを学校全員で共有していることにより、初動が早くなることが期待される。

実際に指導や研修の際、区内各校で共通の資料を使用したのが、編集可能な形でデータ化されているため、学校児童や指導・研究方法に合わせたアレンジが容易にでき、慌ただしいなかでも適切な時期に活用することができた。

(2) 課題

養護教諭同士で意見を出し合い、資料を作成する過程ではスムーズにできると思っても、実際にやってみると多くの課題が見えてきた。例えば、児童の学年によっては指導資料の文言が難しい、リーダー役の職員の役割が多くて指示と判断を並行して行うのが大変、予期せぬ事態が発生したときに不安という声が職員から挙がったことなどが課題である。より誰にでもわかりやすい表現にしたり、役割をシンプルにしたり、困ったときは救急隊員にアドバイスを求められることを周知するなどして、今後改善を図っていきたい。

新型コロナウイルス感染症 保健教育実践集

1. 実践集作成の経緯

令和2年2月28日の文部科学事務次官の通知を受けて3月2日から全国一斉に休校措置がとられたことは皆さんの記憶に新しいかと思います。休校期間中、さらに緊急事態宣言がだされ、未知なる感染症に世の中はどう変わってしまうのか誰もが不安を抱きました。

6月の学校再開が決まった際も、子どもたちに会える嬉しさの反面、人が集まることでの感染リスクの上昇をいかに防ぐか、心のケアはどうしようか、と私たち養護教諭は考えなければならないことは山積みでした。環境衛生、健康観察、保健教育、その情報共有・共通理解って一体どうすれば……。区研や研修の中止により情報が少ない中、不安や迷い、悩んでいた方が多くいたことでしょう。

そんな中で、メンバーを中心に新型コロナウイルス感染症対応のために実践してきた保健教育（新しい生活様式・保健だより・掲示物・保健指導 等）について情報を収集、教育課程委員会が整理し、市内の中学校養護教諭に役立ててほしいという意見があがり、DVD作成に至りました。

2. 内容紹介

①新しい生活様式資料（掲示物・生徒用資料・職員用資料）

教室用の掲示物には登校前・授業中・休み時間に分けた時間ごとの過ごし方や感染症対策のための持ち物、熱中症予防対策、体調不良時の対応、ごみの捨て方等が書かれています。水道用掲示物には手洗いうがいの仕方、蛇口の使い方が書かれており、印刷してすぐに使えるものとなっています。



今の不安な状況、今後は…？

3つめの感染症：「差別や偏見、いじめ」を防ぐ

差別や偏見、いじめを生み出さないために

ちょっと考えてみましょう①

Aさんのお母さんは看護師さんをしており、病院で毎日一所懸命に働いています。あるとき、同級生のBさんが、Aさんに「コロナがうつるから、こっちにこないで」と言っていました。

☆あなたがAさんだったら、どんな気持ちになりますか？

☆あなたがAさんの友達としてその場に居合わせたら、どんな気持ちになりますか？

教育相談では、iPad で動画を見ながら担任と相談を進め、10分程度でまとめられる内容となっています。保健委員会で使用する手洗いチェッカー体験の指導案では、保護者向けの文書やワークシートが掲載されています。

心と体のチェックシート（教育相談）の活用について

(1) 目的
生活習慣病の予防と心身の健康を促す、自ら心と体を鍛える。
運動習慣の定着と心身の健康を促す、自ら心と体を鍛える。

(2) 対象
全学年（1年）～5年生（5年生）

(3) 実施方法
① 10分程度、運動の習慣を促す目的で実施する。
② チェッカーシートは一人ひとりに配布する。（生活習慣病、健康増進のため）

(4) 実施場所
① チェッカーシートは運動場または体育館で実施する。
② チェッカーシートは運動場または体育館で実施する。

(5) チェッカーシートについて
① 運動習慣を促す目的で実施する。
② 運動習慣を促す目的で実施する。
③ 運動習慣を促す目的で実施する。

(6) ストレッチングについて
① 運動習慣を促す目的で実施する。
② 運動習慣を促す目的で実施する。
③ 運動習慣を促す目的で実施する。

(7) 教育相談について

10:55 下校（15:10下校）

- 教育相談で帰る生徒は、手を洗う。職員も…
- 担任と生徒の間をいつもよりとる。（机3つ）

※座る場所については感染予防対策の上、工夫をしてくださいます。また、教育相談の開始と終了に机、椅子の消毒をお願いします。

担任

机

生徒

3 相談が終わっている生徒（学年の先生方のご協力をお願いします。）
（相談が終わったらそこで作業を止める。相談が終わったら続きの作業を続ける。）

- ① 机を空けて直らせる。
- ② タブレットで動画を観る。
- ③ やってみよう！ 新型コロナウイルス感染対策みんなにできること（8：30）
- ④ ウィルスの図にやってくるもの（3：18）
- ⑤ ワークシート記入～回収
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症の診断・リラクゼーション法のプリント配布

4 相談に行くとき、相談から作業に戻るときは手を洗う。

「手洗いチェッカー」で洗ったところを洗ってみよう。

年 級 氏 名

1. 洗った手

洗った手

2. 洗った手

洗った手

④その他の保健教育（with コロナ）

その他の保健教育としては、マリノスの食育教室、熱中症保健教育が掲載されています。マリノスのコーチが食育教室で講演された食事や運動に関する内容が、パワーポイントや資料で分かりやすく紹介されています。熱中症保健教育では養護教諭が授業者となり、生徒を全校で集めない形の、パワーポイントや放送を使った授業展開が紹介されています。

マリノスコーチ

望月さんと考える

心と体を成長させるために必要な3つのこと

熱中症を予防しよう！

横浜市立〇〇中学校 保健室

マスク熱中症に注意！！

マスクをしていると、マスクの中の空気でのどがかわいたことに気が付きにくくなり、脱水や熱中症になりやすくなります。

休み時間には、マスクを外して静かに呼吸を整え、水分をとりましょう。
登下校時は、マスクを外しても大丈夫です。電車やバスに乗る際はつけましょう。

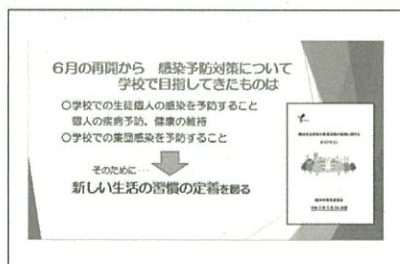
⑤その他

その他としては、次のものが掲載されています。

- ・総合防災訓練 with コロナ・登下校時の熱中症対策・熱中症予防の健康チェック
- ・部活動日誌 with コロナ・保健委員会からのお知らせ・新型コロナウイルス感染症予防保護者説明

総合防災訓練ではコロナ対策として、マスクの着用や密にならない工夫がされていて、各学校の防災訓練での参考になります。熱中症対策や部活動日誌、保健委員会からのお知らせはすぐに活用できる内容が紹介されています。感染症予防保護者説明は、パワーポイントで作成されているので、各種説明会ではそのまま活用できます。

The image shows three sample documents from a school. The left document is a 'Disaster Drill Form' (防災訓練) with sections for drill type, route, and evaluation. The middle document is a 'Heatstroke Prevention Checklist' (熱中症予防のための、活動前の健康チェック) with a table for checking symptoms like headache, dizziness, and fatigue. The right document is a 'Parent Explanation' (保護者説明) regarding COVID-19 infection prevention measures, including school closures and safety protocols.



3. まとめ

保健教育実践集によって、急な対応を求められた時にも、これをもとにきちんとした印刷物や掲示物を提供することができました。

皆さんからの感想にも、「自分の学校用に書き換えられるのが便利」「早い時期に配布してもらえ、ありがたい」「他校の実践が参考になる」などたくさん活用されている様子が窺い知れました。

実践集作成を考えてくださった教育課程委員会の皆さん、本当にありがとうございました。また、突然の呼びかけにもかかわらず実際に資料をご提供くださった多くの養護教諭のみなさまにも心より感謝いたします。



健康診断データ管理システムを通してのスキルアップ

横浜市高等学校養護教諭研究会

1 研究テーマ

「保健室における情報処理の効率化を目指す
～健康診断データ管理システムと健康診断結果通知システムの改良～」

2 設定理由

横浜市高等学校養護教諭研究会では、これまで「執務の見直しを通してのスキルアップ」という研究テーマで継続研究をしていた。平成27（2015）年度に「児童生徒の健康診断マニュアル」が改訂されたことをうけ、平成28・29年度の研究で市立高校の独自システム「健康診断結果通知システム」と「生徒健康診断データ管理システム」を作成、平成30年度令和元年度再構成を行い、「生徒健康診断データ管理システム（改良版）・・・入力用」、「生徒健康診断結果出力システム・・・出力用」を作り、各市立高校にデータで配付した。今年度は実際にどのくらい活用されているのかの調査と、新しく追加する内容の協議を行い、この研究に取り組むこととした。

3 研究内容

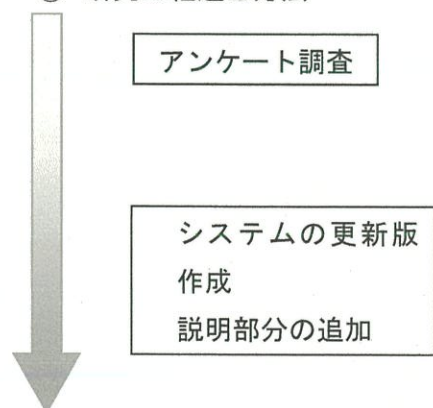
以下の研究を行った。

- （1）健康診断データ管理システムの利用状況調査
- （2）新しく追加する内容の協議と改善

4 研究の経過と方法、資料（抜粋）

① 研究の経過と方法

（令和2年6月～令和3年3月）



- ・ 「生徒健康診断データ管理システム・・・入力用」、「生徒健康診断結果出力システム・・・出力用」の利用状況調査
- ・ 新しく追加する内容や改善点の協議
- ・ システムの利用状況調査結果をまとめる
- ・ 追加する内容を決定する



最新版システムを CD
で配付、説明ファイル
を各校に配付

(令和 3 年 4 月～予定)

- ・ 追加された内容のシステムをCDに入力する。
- ・ 追加の説明書をファイルにして配付

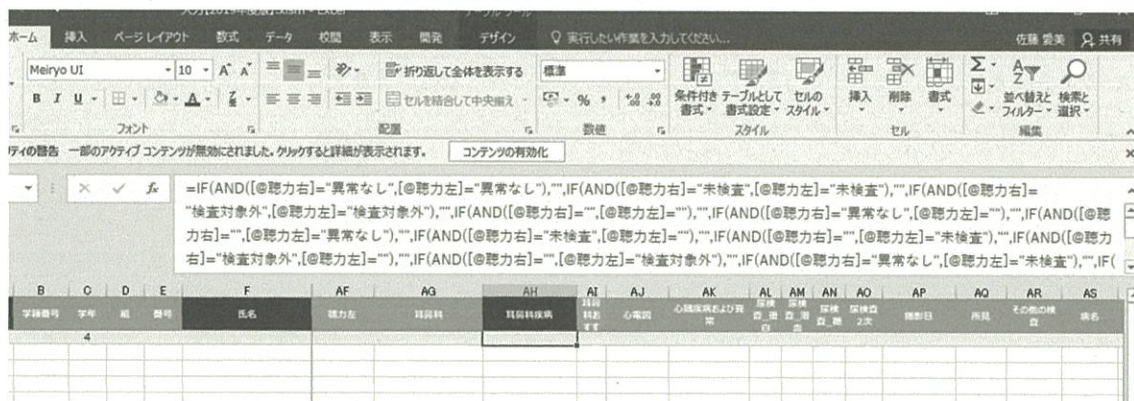
② 作成資料（抜粋）

ここでは新規に作成した健康診断結果通知システムの不備についての改善の仕方を提示する。

* 健康診断結果通知システムの不備について改善の仕方 1

＜耳鼻咽喉科の受診のおすすめの疾患名が二重に表示される（例「耳垢栓塞耳垢栓塞」）。＞

- ① 入力ファイルを開く
- ② 写真のセル内の関数の赤色の部分を削除する



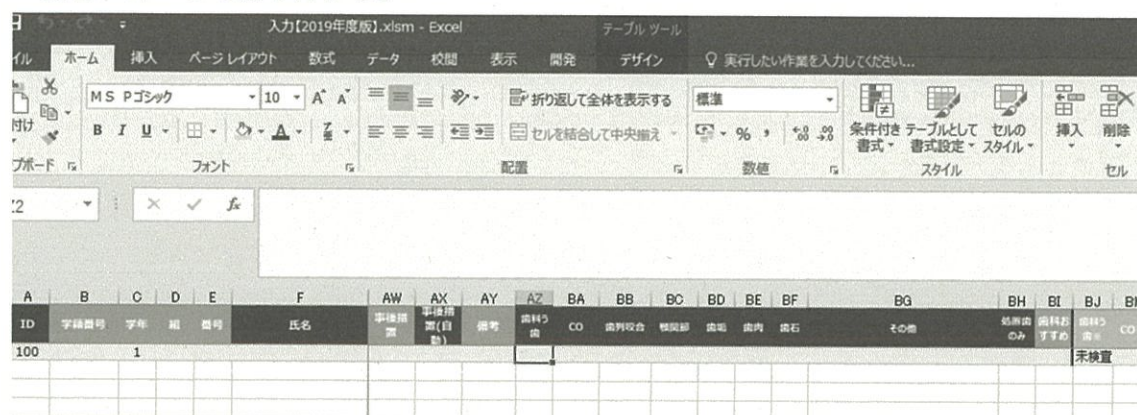
=IF(AND([@聴力右]='異常なし',[@聴力左]='異常なし'),'','','IF(AND([@聴力右]='未検査',[@聴力左]='未検査'),'','','IF(AND([@聴力右]='検査対象外',[@聴力左]='検査対象外'),'','','IF(AND([@聴力右]='','[@聴力左]=''),'','','IF(AND([@聴力右]='異常なし',[@聴力左]=''),'','','IF(AND([@聴力右]='未検査',[@聴力左]=''),'','','IF(AND([@聴力右]='検査対象外',[@聴力左]=''),'','','IF(AND([@聴力右]='異常なし',[@聴力左]='未検査'),'','','IF(AND([@聴力右]='未検査',[@聴力左]='異常なし'),'','','IF(AND([@聴力右]='検査対象外',[@聴力左]='異常なし'),'','','IF(AND([@聴力右]='異常なし',[@聴力左]='検査対象外'),'','','IF(AND([@聴力右]='検査対象外',[@聴力左]='未検査'),'','','IF(AND([@聴力右]='未検査',[@聴力左]='検査対象外'),'','','難聴の疑い'))))))))))&IF(IFERROR(FIND([@耳鼻科],'異常なし未検査検査対象外'),0)=0,[@耳鼻科],'')&IF(IFERROR(FIND([@耳鼻科],'異常なし未検査検査対象外'),0)>0,'',[@耳鼻科])'

- ③ ②方法で 1～4 年の全てのシートを直す

* 健康診断結果通知システムの不備について改善の仕方 2

＜歯科の受診のすすめに 1 年生のみう歯がある生徒に○が表示されない＞

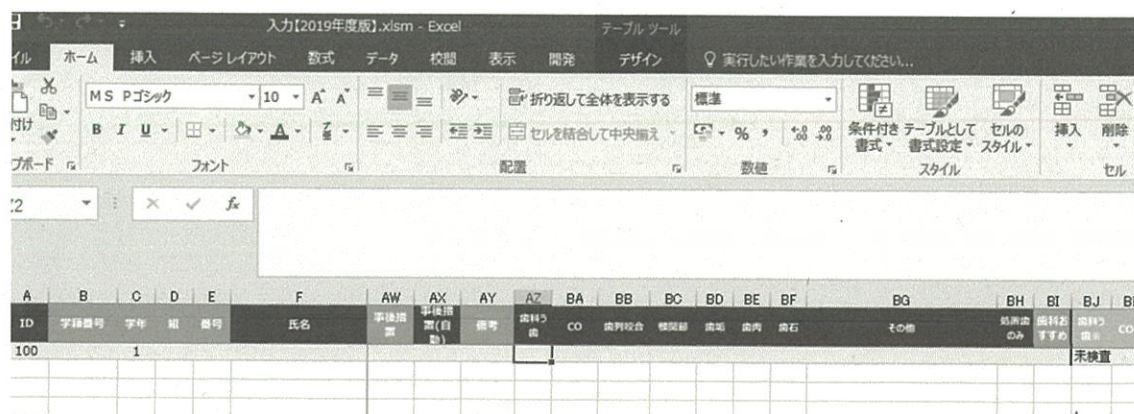
- ① 入力ファイルを開く
- ② 写真のセルに関数が何も入っていないことが原因のため、2 年生以降のシートの同じ場所の関数をコピーして貼り付ける。



* 健康診断結果システムの改善の仕方 3

＜「歯科う歯※(ピンク)」に“なし”といれると「歯科う歯(紺)」が“あり”になり、「歯科おすすめ」に“○”は表示される＞

- ① 入力ファイルを開く
- ② 写真のセル内の関数の赤色の部分を増やす



=IF(OR([@歯科う歯※]="未検査",[@右上8]="未検査"),"未検査",IF([@歯科う歯※]="あり","あり",IF([@歯科う歯※]="なし","なし",IF(OR([@乳歯未処置歯数]>0,[@永久歯未処置歯数]>0),"あり","なし"))))

- ③ ②方法で1～4年の全てのシートを直す

5 まとめ

平成28（2016）年度の取り組みから試行錯誤をしながらもシステムの作成、バージョンアップを繰り返し、より使い勝手のよいシステムができたのではないと思う。作業を迅速に行えるようになり、入力の簡素化でミスが減ることで健康診断の事後措置が本人や保護者に、速やかにかつ分かりやすく行えるようになった。また市立高校共通のものとしたことや、システムのCD化や説明書のファイル作成配付により異動者や初任者でも手軽に使用できるようになるのではと期待している。

今回の研究結果として、市立高校11校全校で使用しており、健康診断のデータを適切に管理し、活用することで健康診断を通した保健管理、保健教育をより円滑に効果的に行うことにつながると考える。

「特別な支援を必要とする子どもたちの歯・口の健康づくり」

～歯科保健教育のスキルアップを目指して～

特別支援学校教育研究会養護教諭専門部会

1 テーマ設定の理由

特別な支援を要する子どもにとって、歯・口の健康づくりは、心身の発育・発達を促し、生活の自立や社会生活への参加、QOLを向上させるための重要な活動である。特に小児期は、「食べる」「話す」という口本来の機能・形態を健全に育成する重要な時期である。

特別支援学校の校種は知的・肢体不自由・盲・ろう・病弱と分かれている。近年、子どもの障害は重度・重複化、多様化し、各校の実態や健康課題も大きく異なる中で、共通課題として取り組んでいる歯科保健教育について深めることを目的に本テーマを設定した。

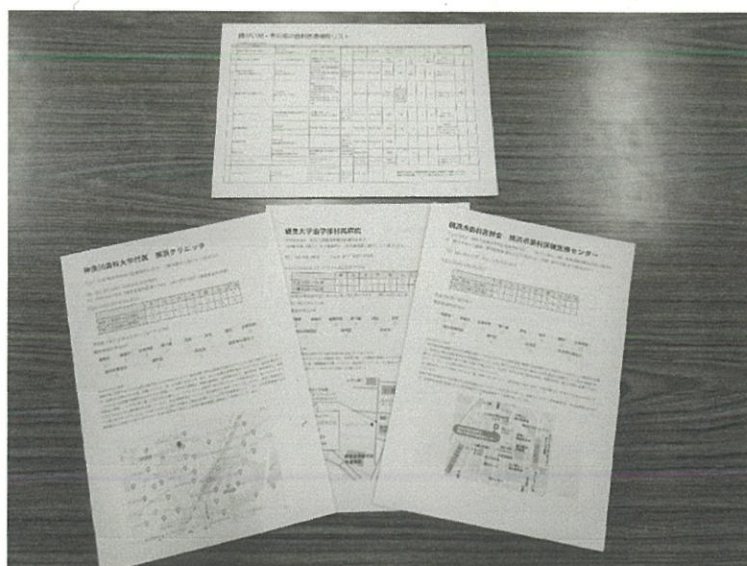
2 研究経過

本研究は、2019年度から始めて今年で2年目になる。昨年度は、障害のある方の口腔衛生について歯科衛生士より講義を受け、研究を深めるとともに、各校の歯科保健活動における主な取組と課題について情報を共有した。障害のある児童生徒が口腔ケアを行う上での難しさや歯科医療機関を受診することが難しい実態であることが共通課題として明らかになった。生涯にわたる健康な歯・口腔の保持増進のためにセルフケアと医療機関での専門的なケアを合わせた口腔ケアが必要であることを確認した。

3 研究内容

共通課題の解決に向け、課題種別にグループに分かれ研究をすすめた。

①Aグループ 「障害者歯科を専門とする歯科医療機関リストの作成」



横浜市立特別支援学校の歯科校医のリストを作成した。

日本障害者歯科医療学会の認定医のリストとそれぞれの医療機関の詳細情報を保護者への参考資料として活用できるようまとめた。

医療機関を受診する際、医療関係者の方々に障害特性について説明する資料や、児童生徒自身が見通しをもって治療を受けるための補足資料を作成した。

歯科医療機関の方へ

名前

(お名前)

障害特性により苦手なことがいくつかあります。チェックリストにマークがついている内容についてできる範囲でかまいませんので、ご理解ご配慮いただくと大変助かります。どうぞよろしくお願いいたします。



- ☐ 待つこと
待ち時間が長い場合は別の場所待たせてもらえると助かります(車の中など)
- ☐ 初めての場所や人
慣れるまでお気に入りのぬいぐるみを抱えたり、保護者が近くに付き添わせてもらえると安心します
- ☐ 音(大きな音、子どもの泣き声、機械音など)
ヘッドホンや耳栓をさせてください
- ☐ 匂い(歯医者の匂いなど)
好きな匂い(家から持参のタオル等)を懐くと安心します
- ☐ 見通しのもてないこと
あらかじめ診療の流れがわかると安心できます(手帳表をもとに本人と確認しながら診療をすすめてもらえると助かります) 終わりがわかると安心できます(例「10分経つまで口を開けてます」)
- ☐ 耳から聞くこと
ゆっくり、単語で話をしてもらえるとわかりやすいです(例:「口、開けてます」「椅子、倒れます」)
- ☐ 集中すること
周りの人やものが気になります。本人から少し離れてもらえると助かります
長い時間、集中することが難しいので、短い時間で設定してもらえると助かります

- ☐ 触られること(特に口の中、鼻、耳、目などの顔周り)
指や歯ブラシで頬や歯茎を少しずつ触れることで慣れていくことができます
- ☐ 急な動作
椅子が倒れるときや起き上がる時など動作が伴う時に一声かけてもらえると助かります
- ☐ まぶしさ(ライトの光)
サングラス等で光の調整をさせてもらえると助かります
- ☐ 尖ったものや金属
ぬいぐるみなどで治療している姿を見せると怖さが和らぐかもしれません
他のこと(好きな動画を見るなど)に集中していると怖さが和らぐかもしれません
- ☐ うがい
うがい上手にできません。口に含むと飲んでしまうことがあります



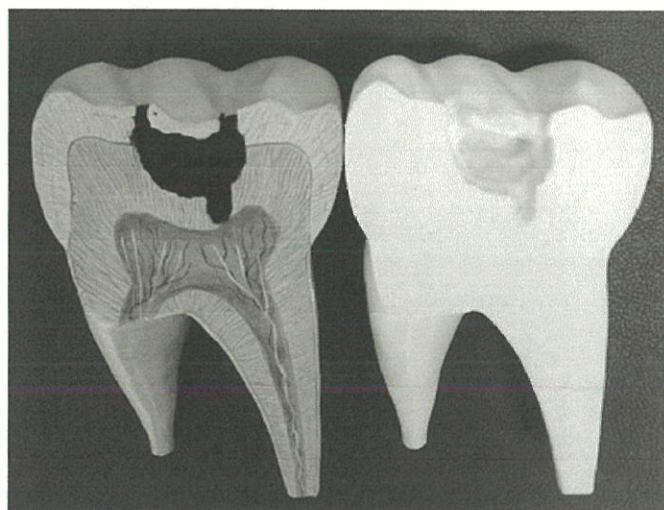
褒められると頑張れます☆
無理のない範囲で、少しずつ成功体験を積み重ねていけたら嬉しいです。
よろしくお願いいたします m(_ _)m

②B グループ 「歯科保健指導用教材の作成」

各学校の歯科保健指導用教材を持ち寄り、グループで共有することから始めた。

教材を作成するにあたり、視覚的・触覚的にわかりやすい教材となるよう重点的に話し合い、また、これまで指導をする際に配慮を要した点についても意見を出し合った。

特別支援学校ならではの視点を生かし、歯科医療機関を受診する際、見通しの持てるようなDVD「歯科医院へ行ってみた」を発達段階に応じた2種類作成した。また、実物を手で触って確かめることができるよう「生え変わり途中」「歯磨きに工夫の必要な歯並び」の模型や、視覚的にとらえやすい「う歯の断面の模型」を3Dプリンタで作成した。資料や教材作成においては、同じ題材を年齢や発達段階に応じて継続的に指導することができるよう工夫した。



③C グループ 「歯科保健にかかわる他機関との連携」

他機関や他職種と連携をとって歯科保健に取り組んでいる例について、次の5つのケースを書面で紹介した。

①本郷特別支援	歯科クリニックとの連携	歯科受診につなげる取組
②ろう特別支援	歯科衛生士との連携	歯科巡回指導の取組
③中村特別支援	栄養士との連携	摂食に関する取組
④上菅田特別支援	歯科校医との連携	摂食指導の取組
⑤港南台ひの特別支援	臨床指導医との連携	口腔機能相談の取組

5つの連携の内容から、特別支援学校の特徴的な点をまとめた。

- ① 歯科受診が難しい子どもたちの関わり方の工夫。(繰り返しの大切さ)
知的障害を持つ子どもたちと保護者にとって、歯科受診はとてもハードルが高いもの。受診、治療が難しい場合は全身麻酔下で歯科治療を行うことも多い。小学校低学年から繰り返し模擬歯科受診の場を学校の保健室でつくすることで、学校以外の場所での診察もうけられるように工夫している。
- ② ろう特別支援学校は幼稚部から高等部まで15年間同じ学校で過ごす子どもが大半を占める。その強味を生かして、一貫した歯科教育を毎年受け、歯みがきの習慣を生活に根付かせることができている。
- ③ 肢体不自由の児童生徒は口腔の機能が未発達な場合も多く、給食の食形態が複数ある。子どもの摂食機能にあった食形態を栄養士、保護者と連携して安全かつ本人の機能を伸ばす給食指導をすすめている。
- ④ 特別支援学校に配属になって、はじめて障害のある子どもたちに食事介助を行うという教員も少なくない。安全に食事介助を行うために、歯科校医による研修会は教員のスキルアップのための貴重な時間となっている。
- ⑤ 特別支援学校には、学校医とは別に臨床指導医が配置されている。肢体不自由や、知的障害の子どもたちで、咀嚼嚥下に課題がある児童生徒は多い。港南台ひの特別支援学校は、障害児歯科専門の歯科医を臨床指導医として迎え、今年度新たに口腔機能相談の場を設定した。教員、保護者、臨床医が連携をとり安全な給食を目指している。

歯みがきの目的は、むし歯予防や肺炎予防にかぎらず、自立に向けての生活習慣の確立、口腔過敏の克服、歯みがきを通したコミュニケーションなど多岐に渡る。そしてその目的を果たすために、保護者、教職員をはじめ他職種にわたる人や機関が関わっている。

私たち養護教諭は、子どものこと、子どもに必要なスキルのこと、関わる人たちのことを知る立場にあるので、これらをうまくつなげるコーディネーター的な役割を担うことができたら良いと考えている。

④D グループ 「職員・保護者向け歯科保健資料の作成」

本グループでは保護者向け資料と教職員向け資料の作成を行った。

作成にあたる経緯としては、学校での定期健康診断の結果、う歯や歯肉炎等により歯科受診勧告書を出していても、未受診のままの児童・生徒がおり、そのような児童・生徒に受診してもらうにはどうしたら良いかと考えた結果、「保護者への啓発活動」と「子どもへの指導」が必要だと考えた。また、肢体校では仕上げみがきや介助を行う場面も多くあり、そのような中で教職員が思っている疑問や質問に少しでも答えることができたかと考え作成した。

歯科治療を受けるのが難しい子の治療法

恐怖心の強いお子さんや歯周病など、障害のあるお子さんでは、歯の治療が怖くてじっとしてられないことがあります。そのようなお子さんでも、必ず治療を受けられるよう現在の歯科治療では様々な方法があります。

抑静法 動いてしまうお子さんを抑えて治療する方法。抑静法は、強張れるけれどもどうしても動いてしまう場合や、抑えられることを嫌がらない場合が適応になる。また発達年齢が2才過ぎくらいまでは、嫌な思いをしても後に残らないと書かれているため、抑えてもいいと言われている。ただし自覚位などの場合は抑えるとトラウマになって、その後その歯科医院に行けなくなることがあるため注意が必要。	行動変容法 トレーニングを行って恐怖心を克服していく方法。いきなり口の中に治療器具を入れるのではなく、手の上で動かしてみせるなど、目に見えないところで治療のやり方を学習し、怖くないことを理解してから治療に臨むようにする。この方法は、いきなり治療を受けて、怖い思いをしたことのあるお子さんなどに適している。またある程度理解力のある、発達年齢が3才後半以上のお子さんにはトレーニングが有効なことが多い。トレーニングの際には、絵を描いたカードなどで治療の様子を説明すると効果的なことがある。
吸入鎮静法 笑気ガスという麻酔ガスを鼻から吸いながら治療する方法。笑気ガスは弱い麻酔ガスで、過剰量で使用することで意識を失ったまま恐怖心を抑えて治療を受けることができる。歯科治療では、口の中を治療する際、鼻からマスクなどで笑気ガスを吸入しながら治療を受ける。意識は残るため、治療中に動くことや受け答えもできる。笑気ガスの副作用はほとんどないが、中耳炎などでは耳が痛くなることもあるので、持病がある場合は事前に相談する。終わった後も、数分休めばそのままだけである。ただし、麻酔作用は弱いので、恐怖心が強まると抑えることができない。また意識は残って動くこともできるため、治療を頑張る気持ちがない場合は難しい。	鎮静剤による鎮静法 鎮静剤を注射したり、もっと強い麻酔ガスを吸ったりしながら治療する方法。吸入鎮静法よりも恐怖心をさらに強く抑えることができる。半分意識もなくなるようにもできるため、治療を頑張る気持ちがいなくなり治療を受けられる。ただし、終わった後2〜3時間は休む必要がある。基本的には体に強い副作用はない。ただし、強い薬を使うので呼吸が止まるということが絶対にないとは言いえないので、設備の整った施設で受けることが必要。鎮静剤による鎮静法は、通常30分〜1時間しか治療が出来ないので、治療に回数がかかる。
全身麻酔 鼻からチューブを鼻管に入れて人工呼吸しながら治療を行う方法。長時間かけて集中治療できるため、一度に通常の数日分の治療が済む。歯科治療の全身麻酔の際は、必ずしも入院の必要はなく、数時間休んで帰る場合もある。全身の状態や施設によっても異なるので、事前に相談すること。全身麻酔は、麻酔の投与や管理があり、十分な研修を受けた歯科医師が実施する必要があるため、一般の歯科医院では対応できる場所は少なく、総合病院や大学病院で行うところが多い。 この中のどれか一つだけではなく、複数の方法を組み合わせるお子さんに合わせた方法で治療をしていきます。歯医者を嫌がるお子さんは多いですが、未知な体験への恐怖や不安があるのは当たり前で、お子さんが思いわけではありません。お子さんと一緒に、頑張れる方法を探して治療していきましょう。	

保護者向け資料は、ほけんだよりや勧告書の裏面に載せることができるような内容にしており、素材集のように、一部のみの使用も可能となるようにしている。

さまざまな不安や特性のある児童・生徒のために、安心して治療を受けることができるよう、麻酔の種類等さまざまな治療法があることや、家庭で行えるような仕上げみがきの方法等も紹介している。

各校の実態にあわせ、必要に応じて活用していく。

教職員向け資料は、基本的な口腔ケアのことだけではなく、歯式の見方や、介助する際の注意点・ハブラシの動かし方等を記載している。

初任者や初めて歯みがきを介助する教職員に配付すると有効に使用できるのではないかと考える。

その他にも、参考になるホームページや参考文献の紹介も載せ、保護者向け資料と同じように各校が必要に応じて活用していけたらよい。

4 まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、少人数でも研究がすすめられるようグループ別に分かれて活動を行った。グループ毎に研究した成果を最後に全体で共有した。次年度は、今年度作成した資料を各校で活用し、その実践において得られた成果と課題を共有していくこととした。

編 集 後 記

『保健集録第70集』をお届けいたします。

横浜市養護教諭研究会は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校研究会で組織されています。各学校間の連携はもとより、小・中学校間でも交流がすすんでいます。研究大会でも異校種の先生方がたくさん参加され、活発な意見交換が行われています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、研究大会や各種大会の開催も大幅に制限されました。

そのような中ですが、この保健集録で、各研究会の研究内容を共有し今後の研究にお役立ていただくとともに、更なる成果へと結び付けていただけたらと思います。

作成にあたり、研究資料をご提供いただいた先生方に感謝申し上げます。

令和3年3月

横浜市養護教諭研究会 集録編集委員
情報委員会

保健集録 第70集

発行日 2021（令和3）年3月31日

発 行 横浜市養護教諭研究会
横浜市小学校教育研究会養護研究会
横浜市立中学校教育研究会養護教諭部会
横浜市高等学校教育研究会養護教諭研究会
横浜市特別支援学校教育研究会養護教諭専門部会